令和元年度 施策評価シート（平成30年度実績評価）

政策 03 こころ豊かに暮らせるまち
 施策 03 人権の尊重
 主管課： 市民協働推進課
 関係課： 社会福祉課、児童福祉課、介護福祉課、生涯学習課

1 施策の目的

対象（誰、何を対象としているか） 市民	意図（どのような状態にしたいのか） 一人ひとりがお互いに人権を尊重し合い、同和問題や児童虐待等の人権問題がない生活を送ることができるまちをつくります。
------------------------	--

2 施策の成果状況（意図の達成度を図る成果指標とその動向）

人権が尊重されているまちだと思う市民の割合						(%)	市民協働推進課
基準値 (H26)	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値 (R03)		
69.10	70.80	69.90	71.50	71.80	72.00		
向上指針	上がると良い	(状況) 前年度と比較して0.9ポイント減少していますが、統計誤差の範囲と考えます。 (原因) 人権が尊重されているまちだと思う市民の割合が半数を超えています。国際化や情報化に伴い複雑化する人権問題の要因は一言で言い表せないのが現状です。そのような中での成果の向上には、地道な教育や啓発活動を継続して実施することが必要です。					
対前年度	横ばい						
目標達成度	中						
次年度課題	課題とする						

基準値 (H26)	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値 (R03)	
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
向上指針						
対前年度						
目標達成度						
次年度課題						

基準値 (H26)	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値 (R03)	
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
向上指針						
対前年度						
目標達成度						
次年度課題						

3 施策に係るコスト（単位：千円）

	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	決算	決算	決算	予算	見込
事業費合計	21,096	38,089	22,139	23,709	23,301
人件費	41,407	45,210	52,327	0	0
トータルコスト	62,503	83,299	74,466	23,709	23,301

4 基本事業の状況

基本事業名称	成果指標の動向					事業費				
						H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
01 人権尊重意識の向上	向上	向上	向上			12,639	31,360	15,253	13,527	13,119
02 男女共同参画意識の向上	横ば					1,710	1,824	68	306	306
03 虐待などの人権問題の解消	維持	低下	横ば	横ば	向上	6,747	4,905	6,818	9,876	9,876

5 施策全体の取組状況と課題

当該年度の全庁決定の方向性（前年度の全庁政策会議での決定事項）

人権施策推進計画に基づき、市民、事業者及び団体等と連携し、人権尊重の教育や啓発を行います。 第三次男女共同参画推進計画を推進し、広報等による啓発活動や啓発講座、研修を実施することで、男女共同参画意識の向上を図ります。 児童、高齢者及び障がい者に対する虐待や配偶者への暴力（DV）の撲滅のため、啓発・周知活動に取り組むとともに、相談体制の充実を図り、虐待等の未然防止や早期解決を図ります。	成果方向性	向上
	コスト方向性	維持

前年度の実績内容、成果及び次年度以降に向けた課題

人権施策推進計画に基づき、市民、事業者及び団体等と連携し、人権尊重の教育や啓発を行いました。目標値を達成できていないため、引き続き人権尊重教育や啓発に取り組めます。 第三次男女共同参画推進計画を推進し、男女共同参画意識の啓発に取り組んでいます。 児童、高齢者及び障がい者に対する虐待や配偶者への暴力（DV）の撲滅のため、啓発・周知活動に取り組むとともに、相談体制の充実を図り、虐待等の未然防止や早期解決を図ります。	推進状況	一部停滞あり
	次年度への課題	課題あり
	成果方向性	向上
	コスト方向性	維持

次年度の方針（当該年度の全庁政策会議での決定事項）

人権施策推進計画に基づき、市民、事業者及び団体等と連携し、人権尊重の教育や啓発を行います。 第三次男女共同参画推進計画を推進し、広報等による啓発活動や啓発講座、研修を実施することで、男女共同参画意識の向上を図ります。 児童、高齢者及び障がい者に対する虐待や配偶者への暴力（DV）の撲滅のため、啓発・周知活動に取り組むとともに、相談体制の充実を図り、虐待等の未然防止や早期解決を図ります。	成果方向性	向上
	コスト方向性	維持